



## ユーザー紹介

### 名古屋大学博物館 梅村綾子 特任助教

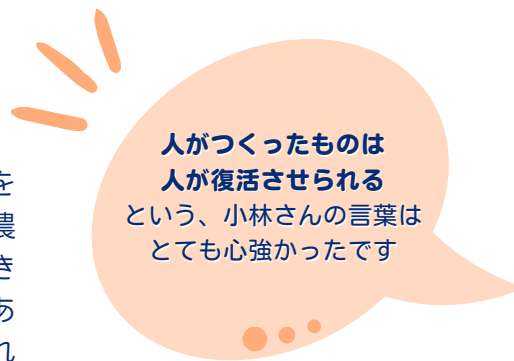
梅村先生は、現在、木曾馬を中心に無形文化遺産の文化的アイデンティティの保持及び発展に寄与する科学教育の構築を研究課題とされています。人と木曾馬がかつて協働していたことを学ぼうと企画された、馬耕体験会で使用する農具の状態を改善したいとして、今回、技術支援の相談をされました。



## ユーザーコメント

名古屋大学博物館主催で木曾馬の馬耕体験会を企画しましたが、昭和30年代に使われていた農具（畜力用松山式双用犁）は、長く使われてきたために擦り減りが見られ、適切な状態ではありませんでした。今は生産もされていなければ、部品もないため、技術支援学内相談窓口にご相談しました。

担当してくださった装置開発技術支援室の小林和宏 主席技師は、残った部分の部品をバラバラにして細かく大きさを測り、削れて消失した部分は元の部品の役割に基づき、形状を設計し直してCADで図面を作成してくださいました。その図面をもとに冶金業者の方が製作してくれ、さらにできあがった部品を再び装置開発技術支援室で組み立ててくださり、見事に犁先（りさき）と犁床（りしょう）が復元されました。



人がつくったものは  
人が復活させられる  
という、小林さんの言葉は  
とても心強かったです



気は優しくて力持ち 人気者の若菜号



復元された犁



復元された犁を使った馬耕の様子